茨城県立水戸第一高等学校
硬式野球部後援会
三の丸倶楽部会報

入　魂

第 16 号

平成２８年３月１日

発行人　事務局長　森　利克
316-0026
日立市みかの原町 2-15-8
TEL/FAX：0294-53-1351
E-mail：ihm2158@ak.wakwak.com

球春到来！　水府倶楽部先輩からの応援メッセージ

野球部時代の思い出と後輩への応援メッセージ

柿木　厚司（S47 年卒）

１．野球部時代の思い出

同級生である「三の丸倶楽部」幹事の照沼君から依頼があったので、当時の思い出などを書いてみます。

とにかく勝てなかった時期でした。私が水戸一高の野球部に在籍したのは、昭和 44 年から 46 年ですが、残念ながら夏の大会では全て初戦で敗退しました。当時の野球部の置かれた環境としては、野球部員の人数とグラウンドの確保が問題でした。1 年生の 8 月以降 3 年生の 4 月まで、体育館の新築工事のために母校のグラウンドは使用できず、毎日千波町の水戸農業高校跡地（当時）のグランドを借りて練習していました。

とにかく水戸一高から授業終了後に練習場まで通うのが大変で、部員も一人また一人と辞めていって人数を確保するのに苦労しました。ひどい時はマネージャーを選手に起用して試合に臨んだこともあります。それでも残った部員の結束は固く、3 年生の時は練習試合でも結果をだせていました。春の栃木遠征では、甲子園出場校だった作新学院に敗れはしたものの 1―3 でしたし、強豪校だった宇都宮農業には勝ちました。この年は期待したのですが、夏の大会前の合宿で調子を崩して、最後の夏も敗退して涙した記憶が残っています。今から思えば、我々部員の意識もそれほど高くなく、練習環境も最悪で、現在のような父母会の応援体制もない状況で、勝てる体制にはなっていなかったのかもしれません。

とにかく、バッテイングマシンなど無い時代でしたから、チームのなかで一番速い球を投げる選手のボールしか速い球は経験できませんし、変化球もしかりです。当時水戸一高が伝統校ということで、関西から遠征してきた強豪校と対戦した時、カーブがこんなに曲がるのかと驚いたものです。全てがシステマチックではなく、長閑な時代だったといえるのかもしれません。弱い時期ではありましたが、今も当時の野球部仲間と会えば、昔の記憶が蘇り、懐かしい思い出です。

２．後輩への応援メッセージ

三の丸倶楽部会報でも拝見していますが、今の野球部の環境、現役の部員の意識も高く素晴らしいと思います。残念ながら期待している『甲子園』への道は未だ途上ですが。

私は大学を卒業後川崎製鉄という鉄鋼会社に就職しました。入社後は人事関係の仕事に長く携わりました。プラザ合意以降、日本の鉄鋼業は円高不況で長く苦しみ、人員の合理化では社員の再就職先にずいぶん苦労しました。また、現在私のいる JFE スチール㈱は、川崎製鉄と日本鋼管が 2003 年に統合して誕生したのですが、その経営統合委員会でもメンバーとして新会社の立ち上げに苦しみました。しかし何時も何とかなるという気持ちでいました。私の経験から言えば、高校時代に何かに真剣に打ち込むことが、後々の人生にとってかけがえのない何かを残してくれたと思っています。

長い人生のなかで、高校生活はほんの一時にしかすぎません。そのあとは、いろいろな試練、苦難、時には喜びが待っているのです。何かに打ち込んだ時期は、その後の人生の拠り所となって、皆さんを

昭和46年　選手権茨城大会対笠間高　柿木氏のバッティング

助けてくれるはずです。人事の仕事が長かった関係で、採用でも多くの若い人と接触する機会がありましたが、何かに打ち込んだ人はそうでない人と違って、体験に基づく何かがあると思っています。そう

いう意味で、採用でもそういう可能性のある若い人を積極的に採用するようにアドヴァイスしています。

野球部として、実績を残せる時期も残せない時期もあるでしょうが、必要なのは『真剣に取り組む事、打ち込むこと』だと思っています。その経験が皆さんの後々の人生に大きなものを残してくれるはずです。先輩として偉そうなことを言いましたが、現役の皆さんの少しでも励みになればと思っています。更にＯＢの一人として、皆さんの活躍によって甲子園で応援できる日がくるのを待ち望んでおります。

練習に工夫と意識改革を

石川　佳孝（H19 年卒）

私は水戸一高卒業後、東京慈恵会医科大学医学部医学科に進学し、6 年間医学を学びました。その後、東京慈恵会医科大学附属柏病院で初期臨床研修医として 2 年間学び、現在は狛江にある第三病院に外科医として勤務しています。

高校時代は 2 年生の時に捕手へ転向し、その後の大学 6 年間も硬式野球を続けました。高校では当時の中山顕監督（現日立一高監督）に野球の技術だけではなく、精神論についても御指導頂きました。何回も根性を叩き直されたことは良い思い出ですが、それがあるおかげで今の自分がいるように思えます。外科医としての激務に耐えられる体力・忍耐力は、高校生活の大部分を占めた硬式野球生活で鍛えられたと考えています。仲間にも恵まれて最高の高校生活を過ごせたと思います。卒業後の集まりにあまり参加できていない私が言うのも何ですが、一番仲が良い学年だと思います。

現在、水戸一高硬式野球部で頑張っているみなさんは、おそらく高校野球の厳しさを感じていると思います。長い練習には体力・精神力が必要ですし、練習が必ずしも結果に結びつかないこともあります。監督・コーチの指導だけではなく、自分から工夫していかないといけないこともあります。練習自体が大変であるため難しいとは思いますが、漫然と練習するのではなく自分の現状を正しく評価して、練習を工夫するなどのトラブルシューティングをしていかなくてはなりません。これは今後、社会に出たときにも日々やらなくてはならないことなので、今のうちから少しずつやれるようにしましょう。

もう一つ、私が後輩に伝えたいことは、オンとオフをしっかり分けることです。長時間の練習で、最高の集中力をずっと維持することは間違いなく不可能です。例え練習中であってもある程度オフをしっかり確保することで、オンでの集中力を質が良いものにしてください。ただし、オフの取り過ぎには注意しましょう。

今、高校野球をやっていることは必ず今後の人生の役に立ちます。どんなにつらい練習でも数年後には笑って思い出せるものになっているでしょう。練習は自分との戦いなので、個人の意識次第でより良いものになります。自分の現状をしっかり把握して、高校野球を存分に楽しんでください。

何事も具体的目標を持ち本気で

佐々木　拡（H21 年卒）

平成 21 年卒の佐々木拡と申します。今回、森様からお話を頂き、折角の機会ですので僭越ながら書かせて頂きます。まずは簡単に私の自己紹介をしたいと思います。私は平成 18 年に水戸一高に入学、硬式野球部に入部し、3 年時に主将を務めさせて頂きました。卒業後は一浪を経て慶應義塾大学に入学、今年の 3 月に慶應義塾大学大学院を卒業します。現在は 4 月から社会人として新しい環境でチャレンジできることに胸を膨らませている所です。

高校時代のことを振り返ってみると、実に密度が濃く、充実し、成長することができた 3 年間であったとしみじみと感じております。高校野球で学んだことはあまりにも多く，今回全てを書くことはできませんが、その中でも今の私の礎となっていることを 2 つ書きたいと思います。

1 つめは『目標を持つこと』です。私は高校入学当初、水戸一高で甲子園出場は夢のまた夢だと思っており、大変軽い気持ちで野球部に入部しました。しかし，そんな甘い考えは先輩方を見て一気に吹き飛びました。先輩方の本気で甲子園を目指している姿を目の当たりにした時の衝撃は今でも鮮明に覚えています。入部当初はそんな先輩たちに必死に食らいつくことで精一杯でした。しかし、自分自身も試合に出場できるようになってからは、「甲子園出

場」という最大の目標のために自分自身やチームがどう成長していかなければならないのかを明確に目標立て、それを実現するために行動することでより質の高い時間を過ごすことができました。これは、普段の生活においても大変大切なことだと思います。ただ闇雲に努力をしたり普段の生活を送るよりも、より明確で具体的な目標を立てることでより充実した時間を過ごすことができるのではないかと、日々考えながら生活できるようになったと思います。

２つめは『何事も本気でやることの大切さ』です。私達は高校時代、野球だけでなく挨拶や返事、グランドでの全力疾走など一見野球に関係ないようなことでもひとつひとつ本気でやろうとチームで決めていました。初めは野球に関係ないと軽く考えていた些細な事・当たり前の事でも、本気でやるとなると難しい。本気でやれない人間は、何においても本気になることはできないと思います。さらに、本気でやることでしか人には伝わらないと思っています。本気でやっていたからこそ、私達の現役最終戦となった茨城大会４回戦の霞ヶ浦高校戦（４－６で惜敗）で水戸市民球場を埋め尽くした人々が私たちに大きな声援を送ってくださったのだと思っています。そしてその声援がどれだけ私たちを支えてくれたか。感謝の言葉しかありません。

私は４月から社会人となり、今まで以上に社会人として責任が出てきます。。その中でどのような場合にあっても、水戸一高野球部員としての誇りを持ち続け、水戸一高の３年間で培ったものを全力で表現していきたいと思っています。

同期及び先輩元部員と後輩の試合を応援する
佐々木元キャプテン（最左端）
（平成24年7月16日（月）日立市民球場）

最後に現役の皆さんに一言。３年間という時間は本当にあっという間です。誰にでも悔いは残ると思いますが、その悔いが少しでも少なくなるように今の貴重な時間を大切にしてください。そして、私も現役の時は恥ずかしながらあまり気づくことができませんでしたが、OB の方々をはじめたくさんの方々が本気で現役の選手皆さんのことを応援してくださっています。その方々への恩返しは、現役の皆さんが悔いを残さず、本気でやることだけだと思います。今後も、陰ながら応援していきたいと思います。そして近い将来、甲子園で水戸一高野球部員が全力でプレーしている姿を応援できることを楽しみにしております。

西日本水中一高会 先輩から

川上　邦利（S38 卒　水府倶楽部）

大阪在住４８年になります。今年は西日本水中一高会の交流委員会委員長の役割を担うことになりました。この度、三の丸倶楽部の皆様に会報を通して御挨拶させて頂く機会を得ましたことを感謝しております。

昨年１０月の昭和３８年卒学年同窓会に出席した折、同じクラスの鬼澤君（会長）の紹介で森君（事務局長）と懇談し、三の丸倶楽部の設立趣意から現在迄の活動状況、今後の活動方針等を直にお聴きしました。

特に「母校硬式野球部の甲子園出場という夢の実現に向かって応援の輪を関西にも広げたい」と云う森君のストレートなメッセージは本人の熱い思いと共に、あきらめかけた私の心を揺さぶりました。早速届いた３０名分の「入会のご案内」と「入会届」を持って西日本水中一高会メンバーの勧誘活動に着手しました。まずは３名のコアメンバーを得て年々会員を増やしたいと思っています。西日本水中一高会に播かれた三の丸倶楽部の種の成長を見守ってください。

今春は１月２日、恒例の豚汁会、水府倶楽部新年会に出席。帰省中の木村祐人君（H２５卒立命館大学、樋川大聖君（H２７卒京都大学工学部、投手）野手）との対面も叶い、関西大学野球リーグ戦の活躍を注目していることを伝えました。彼等の活躍を楽しみにしております。

この出会いを機に三の丸倶楽部と西日本水中一高会の交流促進に努める所存です。今後ともよろしくお願い申しあげます。

西日本水中一高会

旧制水戸中学、水戸第一高等学校の同窓会。対象地域は、名古屋以西、中国地方まで。現在、会員数は約 150 名。

平成２７年度後半　活動報告　　事務局長　森　利克

（１）ほぼ例年通りですが、野球部支援、会報発行、試合応援、新規会員募集、ホームページの維持管理、他を行いました。

（２）野球部支援では、昨年の秋季大会前にヘルメット１５個を寄贈しました。

（３）秋季大会では、会員の皆様の応援も空しく地区大会一回戦で惜敗（２－３常磐大高）し、またしても県大会出場を逃しました。別表にまとめたように、今月２０日に開幕する選抜大会の２１世紀枠に選ばれた釜石高校は秋季地区大会一回戦で大敗（１－１０高田）しながら敗者復活戦を勝ち上がって県大会決勝へ進み、東北大会でも２回戦で惜敗（２－３東北高）するまで変身しました。同じく２１世紀枠出場の長田高校は夏１回戦敗退したものの秋季県大会ではベスト８になっています。両校の躍進のきっかけは何だったかを学ぶ必要があります。

（４）昨年の総会時に今年度の事業方針として挙げた西日本水中一高会へのＰＲを実施しました。水府倶楽部会員でもある堺市在住の川上邦利氏（昭和３８年卒）と同会幹事長の尾城氏（昭和５８年卒）にご協力いただき、昨年末の総会時に入会案内を配布紹介いただきました。また、他の知道会会員、父母の会会員、知道会会員への広報にも努め、約１０名の入会がありました。しかし、一方では数名の方から退会の申し出あり、現会員数は約２１０名となっています。

（５）昨年頭から公開したホームページには主に試合予定と結果を載せています。日平均のアクセス数は公式戦前後で１５０件以上、練習試合前後で１００件程度、シーズンオフ（１２～２月）で３０～５０件です。「交流掲示板」を活用いただき、会員の皆様からのお意見、ご要望を出していただければ本会の活動がより活発になります。よろしくお願いします。

（６）上記活動は３回の幹事会で審議、決定、推進しました。なお、平成２８年度の総会は下記にて開催予定です。正式な開催案内と審議いただく活動報告は５月上旬までにお届けします。

開催日時：６月５日（日）
１１：００～１２：３０
場　所　：知道会館（水戸一高内）

（７）２月１８日（木）以上の活動状況を鬼澤会長に報告いたしました。

会長報告　　鬼澤会長(中央)
照沼幹事(左)　　森事務局長(右)

第８８回選抜野球大会　２１世紀枠出場校の平成２７年度公式戦結果

		岩手県立釜石高校	兵庫県立長田高校	香川県立小豆島高校
創立		大正３年（１９１４）	大正１０年（１９２１）	昭和２４年（１９４９）
推薦理由（新聞記事）		震災以降県内から２１世紀枠出場なし	阪神大震災、夜間定時制、通信制でグランド共有	過疎化希望の星（部員１７人）、県大会優勝（2-1高松商）
甲子園出場歴	選抜大会	１回（平成８年）	初出場	初出場
	全国大会			
春季	地区大会	１回戦　○６－１大船渡東		１回戦　○７－０琴平
		２回戦　●２－４大船渡	２回戦　○４－３神戸村野工	２回戦　○４－３笠田
		敗者復活戦　●１－５大槌（敗者復活戦）	準決勝　●２－１１神戸国際大附	３回戦　●１－３尽誠学園
選手権	県予選		１回戦　●６－７三木北	
		２回戦　○２－１宮古商		２回戦　○８－０高松桜井
		３回戦　●４－５久慈工		３回戦　●０－７高松商
秋季	地区大会	１回戦　●１－10高田		
		敗者復活１回戦　○８－２大船渡東	２回戦　○２－１御影	
		敗者復活代表決定戦　○３－２釜石商	準決勝　○１１－３伊川谷	
			決勝　●２－１５六甲アイランド	
	県大会	１回戦　○５－３久慈東	１回戦　○３－１県立尼崎	
		２回戦　○７－５黒沢尻工	２回戦　○２－０三田松聖	２回戦　○２－０丸亀
		準々決勝　○４－１宮古	３回戦　○２－０県立伊丹	３回戦　○６－３高松南
		準決勝　○３－１花巻南	準々決勝　●２－３神港学園	準々決勝　○２－１大手前高松
		決勝　●３－６盛岡大附		準決勝　○４－２尽誠学園
				決勝　○２－１高松商
	地方大会	２回戦　●２－３東北		準々決勝　●３－４土佐
その他			硬式経験者少、２Ｌ飯摂食（７ｋｇ増）	監督指導方針（教えない、しからない、ほめない）、練習メニュー選手決定、髪型自由、近隣住民練習見学奨励

連載　第５回　　六大学野球におけるＯＢの活躍　　廣木　正倫（S38 年卒）

日本に野球が伝えられたのは、明治５年（１８７２年)に当時の第一大学区第一番中学校(後に一高、現在の東京大学）で米国人教師ホーレス・ウィルソンが学生に教えたのが最初とされている。一高が国内無敵を誇った時代、早慶戦とその中断と復活の時代を経て、東京六大学野球の発足が大正１４年（１９２５年）である。プロ野球の誕生は昭和１１年（１９３６年）のことである。日本の野球の歴史は大学野球がその普及と進化に主役を務めてきたと言える。

水戸一高野球部の創設は明治２４年（１８９１年）であり、一高野球部黄金期の始まりとほぼ同時期である。日本野球の黎明期に、学生野球の父飛田穂洲（忠順）を筆頭に、学生野球の発展に尽くした水戸中学出身の多くの先輩がおられる。その中で飛田穂洲の先輩にあたる２氏を以下に紹介する。

野球殿堂博物館の飛田穂洲レリーフ

明治３０年(１８９７年)卒の五来欣造は、黄金期の一高野球部のマネージャーをされ、野球用語の翻訳をされた。現在使われているポジション名は五来氏によるもので､特に本塁､遊撃、中堅は名訳と言われている。明治３１年（１８９８年）卒の平野正朝氏は一高で内野手として活躍し、一高野球の神髄を掘り下げ、技量よりも精神を高めるべきと説いた。

水戸市民球場の飛田穂洲胸像前でインタビューを受ける一高選手

私が大学野球を見たのは社会人になってからで、昭和４６年（１９７１年）の東京六大学が最初であった。

それまで茨城県営球場での高校野球、年に１度あるかないかのプロ野球、県下に４チームだった社会人野球、毎年の水商校庭での水中水商定期戦を観て育ってきた私が神宮で最初に観た大学野球の印象は強烈だった。早稲田の捕手楠城が放ったセンターの右を破るライナーの打球、その強さを見て、高校野球の一つ上とは言えないレベルの高さに驚いた。

土曜日も働いていた時代で、正午までの勤務だった。会社の寮へのほぼ帰路にあたることもあって、神宮に通い詰めることになった。

東京六大学の魅力の一つは入れ替え戦がないことだと思う。春と秋の２シーズン制も味わいを増す要因だ｡春の新チームが最初にグラウンドに現れた時、新しい主将を先頭に溌剌と外野へ走って行く選手の集団が眩しく見えた。

秋は４年生の最期のシーズン。週を重ねるに従って秋が深まり、寒さが近づいてくる。球場に漂う季節感・寂寥感と、優勝争いの熱気とが混然と心にしみてくる。ネット裏の年季の入ったスコアブックを携えたオールドファンは寒さに備えコートを用意して来ていた。その姿に尊敬の念が湧いた。

通い始めから応援したのは、当然大先輩飛田穂洲が嘗て活躍･指導された早稲田大学だ｡主砲､投手、監督の石井連蔵に続いて、桜井薫、荒川悌二、細谷敬と尊敬する先輩がおられて、早稲田ファンになる根拠はたくさんあった。

通い続けているうちに、六大学すべてに敬愛の念を持つようになってきている自分の変化に気が付いた。毎年選手が入れ替わり、４年経つと選手は全員交代している。それでも各大学のチームカラーは変わらないのだ。

早慶それぞれにチームカラーはくっきりと違う。最初にベルトレスを採用するなどユニフォームの細部を頻繁に変える東大もチームカラーは不変。明治は明治、立教は立教、法政は法政なのだ｡明治以来、野球を愛した先達の魂が各校の伝統を育んで来たのだろう。

各校の伝統の重さに敬意を覚え、その伝統が築かれてきた過程にわが母校の先輩の顕著な功績が多々あったことに思いを馳せた。観戦を続けるに従い、大学野球への愛着が深まり、併せて水戸一高の大学野球との縁が自分の胸を熱くしているのを感ずるようになった。

残念だったのは昭和４７年（１９７１年）からの９年間で水戸一高出身の選手の出場が無かったこと。最近は各大学の系列校出身者が多く、公立の進学校出身者は殆ど見当たらない。高校時代からいわゆる野球強豪校か大学の系列校からの出身でないとベンチ入りもなかなかできないようである。益々母校の卒業生の出場が難しくなる中、平成２４年（２０１２年）の大学選手権の決勝戦で水戸一高校卒で早稲田大学の高橋直樹君が活躍し、副将として優勝杯を受け取る姿を見た。場内スクリーンに水戸一高の文字。一般入試で入学し、人望を得ての副将として強い印象を残す活躍をしていることに感動し身震いした。他にも早稲田では平成１８年（２００６年）卒の鈴木寛明君、慶応では平成２０年（２００８年）卒の小野瀬佑宜君、平成２１年（２００９年）卒の早川亮君が活躍して後輩の大きな励みとなった。

彼らに続いて卒業後も大学で野球を続けている選手諸君の活躍と発展を心から願っている。同時に、現役部員に多くの偉大な先輩が汗を流したグランドに立つ幸せを思い、一人一人の背中に伝統の力が宿っていることを信じ、練習に、試合に邁進して欲しいと強く願っている。

（敬称略）

（大学野球関連資料）

［水中・一高関係　敬称略］

五来　欣造　明治３０年４月卒　一高マネージャー
野球用語翻訳　政治学者、文学者、読売新聞主筆、明治大学教授、早稲田大学教授

平野　正明　明治３１年３月卒　一高内野手
一高野球の精神を掘り下げ、精神野球を説いた。後に京大に進む。一高寮歌作詞

長塚順次郎　明治３２年３月卒　長塚節の弟
一高外野手　下妻中を率いて水戸中学を破る

黒田　昌恵　水戸中学卒　一高投手
一高時代の終わりの頃のエース
第一回早慶戦の審判を務める（一高選手として）

鈴木　豊　水戸中学遊撃手
対宇都宮中戦にて活躍　明治３４年早大野球部創立に尽力
明治３６年第一回早慶戦左翼手
明治３６年早大野球部第一回アメリカ遠征左翼手

飛田　忠順（穂洲）
明治４０年３月卒
学生野球の父、昭和３５年（１９６０年）に野球殿堂入り

大井　斉　明治４１年３月卒
明治３８年慶応普通部に１安打
投手最初のワインドアップ投法

［大学野球小史］

明治　５年（１８７２年）　ホーレス・ウィルソンが一高を指導
明治２３年（１８９０年）　５月インブリー事件
明治２４年（１８９１年）　茨城県尋常中学校硬野球部創部
明治２４年（１８９１年）　秋　一高が明治学院白金倶楽部を再び下す。「日本に敵なし」宣言
明治２９年（１８９６年）　栃木県尋常中学校（現宇都宮高校）と第一回定期戦　最古の対校試合
明治３６年（１９０３年）　秋　早慶戦開始
明治３７年（１９０４年）　一高早慶に敗れる。一高野球黄金時代終わる。
明治３９年（１９０６年）　秋　早慶戦中止
大正　元年（１９１２年）　早稲田夏季コーチ
７月２０日より１２日間（大井、弓削）
大正１４年（１９２５年）　東京六大学野球開始

（入魂第 17 号に続く）

（注）インブリー事件

明治 23 年（1890 年)5 月 17 日、明治学院の白金倶楽部と第一高等中学校の野球の試合が本郷向ヶ丘グラウンドで行われた。試合は 6 回の時点で 6-0 と明治学院が大量リードする展開となっていた。

そんなとき明治学院のインブリー教授が試合開始時間に遅れて到着し、球場の脇にある竹の垣根を乗り越えてグラウンドに入ると、一高応援団に取り囲まれた。インブリー教授と押し問答を繰り返すうちに、生徒の一人が凶器のペンナイフで教授の顔面を刺し、重傷を負わせた。外国人が垣根を乗り越えたぐらいのことで、一高応援団はどうして激昂したのか。それは彼らのグラウンドに対する考え方に原因がある。教授が乗り越えた垣根は当時「魂の垣根」とも「心霊の垣根」とも呼ばれており、それに囲まれたグラウンドは剣道や柔道などを行う「道場」と同じように扱われてきたのだ。従来、道場は神聖なものであり、入る際には正面の入り口から一礼をして入るのが当然とされてきた。当然グラウンドに入る際も同様でなければならない。だが、その戒めを敵チームの外国人が破ったのだ。一高応援団にとってそれは許されない事態であった。さらに試合に負けていたということもあり、一高応援団が激怒し教授に対して暴行を働いてしまったのだった。

この事件は、在日欧米各誌が"Imbrie Affair"（インブリー事件）として取り上げて、一時外交問題に発展しそうになったが、インブリー氏の配慮で事件は収まった。

『ウィキペディア（Wikipedia)』他より

平成27年秋季大会　点描

ナイスボールだ！

勝負はこれからだぞ

よし　いけるぞ

ナイスバッティング集

硬式野球部　名簿

（敬称略）

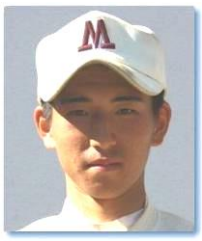
部長　小島 淳　　監督　竹内 達郎　　顧問　武士 敬一　太田 泰助

二年生

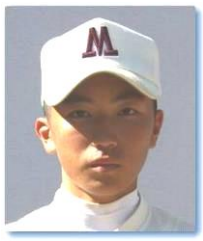
主将 市村 悠大
美野里中
投手・内野手

石津　賢弥
茨大附属中
投手・内野手

皆藤 駿之介
双葉台中
内野手・外野手

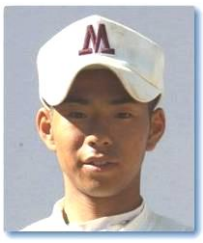


金子　舜
大洗一中
外野手



佐藤　広基
大島中
外野手・内野手

静間　崇元
水戸一中
内野手



鈴木　文健
那珂一中
内野手

早船　祥希
水戸二中
捕手・投手

古川　稔己
多賀中
投手・内野手

山口　諒
千波中
外野手

水庭　侑香
駒王中
マネージャー

一年生

内桶　達史
友部中
捕手・外野手

内野　汰一
城里常北中
内野手

大賀　悠生
泉丘中
外野手

加藤　優作
城里常北中
内野手

川田　尚輝
水戸三中
外野手

栗原　幸太郎
水戸四中
捕手・内野手

香西　健匠
茨大附属中
投手

小柴　鴻士郎
茨大附属中
内野手

島　凌外
東海南中
内野手

田中　希
水戸一中
内野手

常井　直樹
友部二中
内野手

飛田　怜央奈
太田中
内野手

萩谷　大智
笠原中
外野手

幡谷　寛朗
茨大附属中
外野手・投手

馬場　達哉
水戸二中
内野手

深田　皓太
大島中
内野手

中村　祐斗
瑞竜中
マネージャー

折橋　桃子
佐野中
マネージャー

試合結果・予定

平成２７年度後半　公式戦・準公式戦結果

月	日（曜）	大　会	球場	結果
9月	12日（土）	秋季地区一回戦	水戸市民	●2-3常磐大高
10月	24日（土）	一年生	水戸農	●1-4水戸葵陵
11月	29日（日）	水商定期戦	水戸商	●1-3水戸商
1月	2日（土）	豚汁会	水戸一	○9-4水府倶楽部

平成27年度後半　練習試合結果

月	日（曜）	球場	結果
8月	30日（日）	下館一	● 4- 5 下館一
			○ 5- 4 水海道一
9月	5日（土）	岩瀬日大	● 0- 1 岩瀬日大
			○ 8- 7 古河三
	6日（日）	真岡	● 0-10 真岡
			● 2- 5　〃
	19日（土）	つくば国際	○ 3- 2 つくば国際
			○ 2- 0 取手松陽
	21日（祝）	波崎柳川	○ 2- 1 波崎柳川
			△ 5- 5　〃
	22日（火）	下館工	● 4- 8 下館工
			○ 9- 2　〃
10月	3日（土）	勝田工	● 2- 3 勝田工
			● 4-16　〃
	4日（日）	柏中央	● 3- 6 柏中央
			○ 8- 6　〃
	12日（月）	常総学院	● 0- 8 常総学院
			○ 9- 1 野田中央（8回）
	18日（日）	敬愛学園	● 4- 7 拓大紅陵
			● 5- 7 敬愛学園
	25日（日）	麻生	○ 8- 0 麻生
			● 0- 5　〃
11月	1日（日）	中央	● 4- 8 中央
			○ 9- 3　〃
	3日（祝）	那珂	△ 4- 4 那珂
			●10-11　〃
	28日（土）	石岡一	● 0-14 石岡一（5回）

平成28年度 試合予定（H28.2.6現在判明分）

月	日（曜）	大会・対戦校・会場等（V：相手高G、H：水戸一G）
3月	5日（土）	審判講習会補助員(ひたちなか市民球場)
	13日（日）	練習試合　清真・波崎柳川(V)
	18日（金）	(岡山遠征～21(日))
	23日（水）	練習試合　取手二(V)
	26日（土）	練習試合　福島県立安積(笠間市民球場)
	28日（月）	練習試合　新潟県立新津・秋田県立横手(H)
	30日（水）	練習試合　水海道一(V)
	31日（木）	練習試合　帝京長岡(H)
4月	2日（土）	練習試合　群馬県立中央中等(H)
	5日（火）	練習試合　取手松陽(V)
	10日（日）	練習試合　牛久(V)
	11日（月）	春季水戸地区大会組合せ抽選
	14日（木）	春季水戸地区大会(～18(月))
	22日（金）	春季県大会組合せ抽選
	27日（水）	春季県大会(～29(祝)、5/1(日)、4(水)、5(祝))
5月	5日（木）	練習試合　宇都宮(V)
	8日（日）	練習試合　土浦一(V)
	15日（日）	練習試合　緑岡(V)
	21日（土）	春季関東大会(～25(水)於群馬県)
	下旬	市内大会
6月	12日（日）	練習試合　千葉県立佐原(V)
	23日（木）	茨城大会抽選会
7月	2日（土）	練習試合　群馬県立桐生工(V)
	3日（日）	練習試合　水海道二(V)
	7日（木）	茨城大会(～10(日)、12(火)～14(木)、17(日)～18(月)、21(木)、23(土)、25(月)、26(火))
8月	下旬	ジュニア大会
9月	5日（月）	秋季水戸地区大会組合せ抽選会
	8日（木）	秋季水戸地区大会(～13(火))
	16日（金）	秋季県大会組合せ抽選会
	22日（木）	秋季県大会(～23(金)、25(日)、28(水)、10/1(土)、2(日))
10月	22日（土）	秋季関東大会(24(土)、29(日)、30(火)於栃木県)

平成 28 年度　年会費納入のお願い

まもなく新年度を迎えます。下記により年会費の納入（振込み）をお願いいたします。

年会費：一口　3,000 円（複数口も大歓迎です）
振込先：常陽銀行　本店営業部
　　普通預金口座　２９４５６１９
名義　：サンノマルクラブ

三の丸倶楽部

顧　問：稲葉節生（S38 年卒　元茨城県教育長）
会　長：鬼澤邦夫（S38 年卒　常陽銀行会長 知道会会長）

事務局長　：森　利克　（S38 年卒）
幹　　事：照沼貞夫　（S47 年卒、H20 年卒父母会）
　　池永充宏　（H23、24 年卒父母会）
　　田村照悟　（S52 年卒、H24 年卒父母会）
　　船橋信正　（S63 年卒、水府倶楽部）

会員募集中！　詳細は当会ホームページをご覧ください
http://sannomaru-club.com
連絡先：森利克　TEL/FAX 0294-53-1351
E-mail　：　ihm2158@ ak.wakwak.com

編集後記

今回は我が国を代表する企業のトップとしてご活躍中の先輩、最近実社会で活躍を始めた先輩、まもなく実社会へ飛び出す先輩の３名の方々から後輩部員への応援メッセージをお寄せいただきました。

柿木厚司氏(昭和４７年卒)氏は東京大学を卒業され、ＪＦＥスチール（株）の社長として業界の世界的再編という激流の中で指揮を執っておられます。当時は部員不足（同期５人）や体育館新築工事により約１年半グランドが使用できないなどの逆境を、江幡キャプテン（現ヤクルト球団専務）とともに協力して乗り切ったそうです。

石川佳孝氏（平成１９年卒）は慈恵医大を卒業され、昨年４月から慈恵医大病院の新進気鋭の臨床外科医として激務をこなしておられます。大学でも硬式野球を最後まで続けられた強い精神力の持ち主です。

佐々木拡氏（平成２１年卒）は秋季県大会ベスト８のキャプテンとして活躍され、来月慶応大学修士課程を修了後にＪＲ東海へ就職される予定です。日本の大動脈である東海道新幹線、次世代のリニア新幹線に係る技術者としての活躍が期待されます。

これら諸先輩方々のからの激励が、現部員及びチームの意識改革に繋がることを期待している。（森）